

リウマチ看護師による関節リウマチ患者の自己管理能力 育成に向けた教材の設計

Developing Self-management Skills of Patients with Rheumatoid Arthritis: Designing Learning
Materials for Rheumatology Nurses

二之宮 篤子^{*1}
Atsuko NINOMIYA^{*1}

久保田 真一郎^{*1}
Shin-Ichiro KUBOTA^{*1}

マジュンダール・リトジット^{*1}
Rwitajit MAJUMDAR^{*1}

合田 美子^{*1}
Yoshiko GODA^{*1}

熊本大学
Kumamoto University^{*1}

＜あらまし＞ 関節リウマチ治療では看護師による患者の自己管理教育が推奨されているが、特にリハビリテーション関連の教育は看護師の自信のない領域とされる。看護師が自信を持って患者の能力を育成するために、その知識獲得を目的とした教材が必要と考えた。教材はガニエの学習成果の 5 分類に沿って作成し、教材の理解を深めるための e ラーニングとともに設計した。複雑な患者教育内容においても、学習成果を整理した教材によって学習効果が促進され、と考える。

＜キーワード＞ 患者教育、ガニエの学習成果の 5 分類、e ラーニング、リハビリテーション、関節リウマチ

1. はじめに

関節リウマチ (RA) 治療では薬物療法や手術療法、リハビリテーション (リハビリ) に加え、患者自身によるケアや自己管理が重要とされる。房間ら (2020) によると、自己管理能力の育成には看護師による患者教育が推奨されているが、自己管理のうち、身体活動などリハビリ関連の支援に自信がない看護師もいる。

そこで患者の自己管理能力育成には、まず看護師の知識獲得を目的とした教材や研修が必要であると考えた。ガニエの学習成果に沿った教材や研修の設計を試みたので報告する。

2. 研究の背景

RA 治療に携わる看護師 (リウマチ看護師) を対象にした二之宮らによる調査 (2021a) では、ほとんどの看護師が看護師によるリハビリ教育の必要性はあると考えていたが、患者教育に至らない理由の一つにリハビリ関連の知識不足が示された。また二之宮らによる調査 (2021b) では、約半数の看護師がリハビリ指導の内容を知

りたいと回答した。

これらの結果から、看護師のリハビリ関連の教育を推進するニーズがあると考えた。

3. 研究目的

本研究ではリハビリ関連の領域のうち、「自宅での運動方法」の教育を対象とする。カークパトリックの 4 段階評価を用いて、患者の自己管理実践によって障害進行予防などが達成されるかどうかを最終的な評価指標 (レベル 4) とする。現時点での研究範囲は、患者の自己管理教育に関する満足度評価までとする (図 1)。

本発表における研究目的は、①ガニエの学習成果の「言語情報」「知的技能」に沿って作成した紙媒体の患者教育資材 (教材) をリウマチ看護師が学ぶことで看護師の知識不足が補われたか (患者教育に関するレベル 2)、②看護師の患者教育実践が向上したか (患者教育に関するレベル 3)、③看護師の患者教育実践による患者の反応はよかったか (患者の自己管理に関するレベル 1) をそれぞれ評価、分析することである。

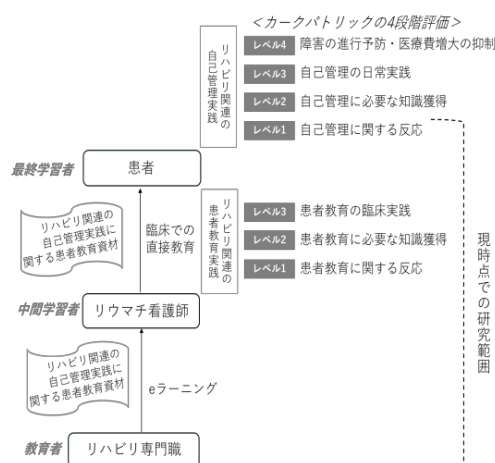


図1 研究の全体像と現時点での研究範囲

4. 教材と研修の設計

RAのリハビリ専門職が常駐しないRAの医療機関もある。そのため、医療機関の枠を越えてリハビリ専門職（教育者）がリウマチ看護師（中間学習者）をeラーニングで教育し、その看護師が自施設の患者（最終学習者）を直接教育するという形式で設計する(図1)。

リハビリ関連の自己管理では関節障害の予防が目的になる。それには症状に関する知識と、症状遷延によって生じる関節障害に関する知識が必要である。リウマチ看護師は症状に関する知識を持っているが、房間ら（2020）によると関節機能評価に自信のない看護師もいる。看護師が関節障害に関する知識を習得できれば、リハビリ専門職による直接教育ができない医療機関でも、患者は看護師から自己管理に必要な知識を習得することができると考えた。

そこで教材では、単純な関節運動を「言語情報」、日常生活での目的を持った動作を「一般的な知的技能」として提示する。動作とは目的に合わせて関節運動が組み合わされる動きであることを示す。またRAは炎症性疾患であるので、炎症に関する知識を「言語情報」、関節の腫脹があるときの運動調整を「疾患特有の知的技能」として提示する。炎症に対処しながら関節機能を維持させる運動方法を示す。「知的技能（目的にかなった動作）」の土台に「言語情報（関節運動）」があるという階層を示し、患者の自己管理として関節運動継続という行動変容に繋げる。

リウマチ看護師は教材を用いてeラーニングで言語情報を学習する。十分に言語情報が獲得されたことを評価したら、Web同期研修にて知的技能を学習する。臨床で出会う様々な症例を共有することで疾患特有の知的技能を深める。十分に知的技能が獲得されたリウマチ看護師には教材を用いて自施設で患者教育してもらい、患者の自己管理能力を育成する。患者教育の成果については、患者の満足度評価で分析する。

5. 研究対象と医療の倫理的配慮

対象は国内で現在リウマチ治療に携わっているリウマチ看護師10名、また看護師が自施設で1患者を教育してRA患者10名とする。居住地域や就業年数、治療年数、性別は問わない。

患者が通院する医療機関や主治医の治療方針に沿う場合にのみ本教材を使用する。自主訓練後に痛みが増悪したときには、それぞれの医療機関で速やかに対応してもらう。

6. 今後の課題

看護師による教育を受けた患者が教材に提示された運動を継続するという行動変容に至るか、また行動変容が関節障害の進行予防を達成するのかを評価することである。

参考文献

- 房間美恵, 中原英子, 金子祐子, 竹内勤 (2020) 慢性炎症性関節炎の管理における看護師の役割についての EULAR リコメンデーション: 2018 改訂版. 臨床リウマチ, 32: 6-12.
- 二之宮篤子, 中原英子, 藤田慎一郎, 佐藤信治, 松尾絹絵, 他 (2021a) 看護師によるリハビリテーション関連の患者指導の現状調査—患者指導の必要性についての報告. 第 65 回日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム・抄録集, 2021:711.
- 二之宮篤子, 中原英子, 藤田慎一郎, 佐藤信治, 松山宜之, 他 (2021b) 看護師によるリハビリテーション関連の患者指導の現状調査—患者指導への関心についての報告. 第 36 回日本臨床リウマチ学会総会・学術集会プログラム・抄録集, 2021:282.